

おかえりを言いたかった

名無之助

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

宇宙戦艦ヤマトの戦死者の家族に焦点を当てたドキュメンタリー風短編集を予定

作者の他の宇宙戦艦ヤマト作品との関連性は無いです。

# 目次

ガミラス戦役	1
インタビュー	1
村中・早苗三等宙尉	1
インタビュー対象	1
兄	1
村	1
中・光一	6

## ガミラス戦役

西暦2249年12月 地球人類初の異星人との戦争が終結して50年の節目の年、あるドキュメンタリー映画が製作された。

この番組では、映画公開に先立ち、映画の製作の動機と、映画内で紹介される戦死した将兵の情報の一部を独占放送いたします。

映画の題名は、おかえりを言いたかった

監督は名無乃助氏

戦争当時の戦死した国連宇宙海軍将兵の家族に焦点を当て、ガミラス戦役、ガトランティス戦役などの2249年までに起きた幾つかの戦役を戦役毎に章として区切り製作されたドキュメンタリー映画である。

以下、対象とされた戦死将兵の氏名、年齢、階級、戦死時の詳細と、なぜ対象となったのかを紹介したいと思います。

ー

氏名 村中・早苗(24) 三等宙尉

国連宇宙海軍

極東管区連合艦隊

乗艦 駆逐艦ツバキ 船務長

ガミラスとの初接触時に戦死

詳細

ガミラスとの初接触時に巡洋艦ムラサメの僚艦として護衛任務についた駆逐艦ツバキの船務長だった。

ムラサメが撃沈された直後に乗艦も攻撃を受け轟沈、戦死

取材対象は兄である村中・光一氏 医師

ー

氏名 クリス・k・ランバート(51) 少将

国連宇宙海軍

欧州管区連合艦隊 海王星方面防衛隊

乗艦 戦艦クイーン・エリザベス 艦隊司令

海王星でのガミラス艦隊との遭遇戦にて戦死

詳細

海王星軌道のスペースコロニーや衛星から疎開中の開拓団などの民間人の船団護衛任務についていた際にガミラス艦隊と遭遇、戦闘となり、船団の盾となる形で艦隊は全滅、乗艦は船団へ攻撃しようとした敵巡洋艦に体当たりし轟沈、戦死。船団は追撃を受けたが、半数が離脱に成功した。

取材対象 当時11歳だった息子のライアン・K・ランバート氏  
現地球連邦防衛宇宙軍中将

――

氏名 レイモンド・レスター（48） 少佐

国連宇宙海軍

北米管区第三艦隊

乗艦 駆逐艦ドレイク 艦長

第一次火星沖海戦にて戦死

詳細

友軍艦隊の撤退支援に志願、駆逐艦隊を指揮し、ガミラス駆逐艦2隻を同士討ちを利用し撃破後、機関部被弾により操舵不能になり、敵巡洋艦と衝突し敵巡洋艦と相打ちの形で轟沈し戦死。

取材対象は当時10歳だった少佐の娘であるキャサリン・アイハラ氏 看護師

――

氏名 ミリアリア・ハーリング（19） 二等海兵

国連宇宙海軍

北米管区第一艦隊

乗艦 戦艦ワシントン 給養員（調理担当）

第一次火星沖海戦にて戦死

詳細

第一次火星沖海戦にて、指揮系統分断を狙う敵艦隊の攻撃により、旗艦であった乗艦が攻撃され最初の被弾時に被弾箇所付近にいた為、ビームの直撃を受け蒸発、戦死。乗艦もその後轟沈。

取材対象は父親であるバリー・ハーリング氏 現在95歳 地球連

邦防衛宇宙軍退役大佐

ー

氏名 アルバール・ホイットニー(43) 中佐

国連宇宙海軍

北米管区第二艦隊↓国連宇宙海軍連合艦隊

乗艦 巡洋艦サン普森 艦長

第二次火星沖海戦にて戦死

詳細

沖田提督指揮の元敵艦隊に対し損害を与えていたが、戦況が不利になり始めた頃に沖田提督に座乗艦に迫る敵艦を見つけ攻撃するも回避され、反撃を受け轟沈 戦死 第一次火星沖海戦での北米管区第二艦隊唯一の生き残りであった。

取材対象は当時13歳の一人娘であるレイア・コートニー氏 美容師

ー

氏名 沖田・総一(37) 三等宙佐

国連宇宙海軍

国連宇宙海軍連合艦隊

乗艦 駆逐艦 テルヅキ 艦長

第二次火星沖海戦にて戦死

詳細

第二次火星沖海戦にて、沖田提督指揮の元敵艦隊に優勢な戦況だったのが徐々に不利になり始めた頃に、沖田提督座乗の旗艦キリシマに攻撃しようと近づく敵駆逐艦の攻撃から旗艦を守り大破、そのまま敵駆逐艦に体当たりし轟沈、戦死

取材対象はその数週間後に生まれた娘である沖田・小春氏 医師

ー

氏名 沖田・一三(57) 宙将

国連宇宙海軍

乗艦 宇宙戦艦ヤマト 艦長

イスカンダルからの帰還時に遊星爆弾症候群により病死、作戦行動

中の病死との位置付けで戦死扱いとなる。

#### 詳細

国連宇宙海軍連合艦隊司令長官として第二次火星沖海戦を勝利に導き、その後冥王星海戦をへて彼の宇宙戦艦ヤマト艦長となり、第二次冥王星海戦を勝利し、その後もガミラスの名将、エルク・ドメル大将を破るなどの戦果を挙げ、イスカンドルからのコスモリバースシステムを地球へ持ち帰り、帰還直前に遊星爆弾症候群が悪化し病死する。作戦行動中の病死として戦死扱いとなる。

取材対象は同上の沖田・小春氏

――

氏名 ヴアルケ・シウルツ（48）大佐

大ガミラス帝国軍

座乗艦 戦艦シュバリエル 冥王星前線基地司令

グリーゼ581でのヤマトとの戦闘で戦死

詳細

冥王星前線基地司令として、幾度も地球軍と交戦し、戦果をあげていたが、ヤマトとの第二次冥王星海戦に敗北、その後グリーゼ581で新型宇宙魚雷を使用してヤマトを追い詰めたが、ヤマトの戦略により魚雷が無効化され、追撃するも太陽フレアに巻き込まれ戦死

取材対象は当時13歳だった娘のヒルデ・シウルツ氏 メイド喫茶

経営

――

氏名 オムニー・ライム（32）少佐

大ガミラス帝国軍

ガミラス本土防衛軍

ヤマトのガミラス本星侵攻時にヤマトに撃沈された艦の残骸の下敷きになり戦死

詳細

ヤマトがガミラス本星へ侵攻した際に、指揮下の部隊を率いて市民の避難誘導にあたるが、誘導中に撃沈され墜落してきた友軍艦に巻き込まれ戦死

取材対象は当時12歳のカインリー・シユルツ氏　メイド喫茶調理  
スタッフ

――

ここまで拝見しますと…結構若い方も亡くなっているんですね。  
どのような経緯でこの映画を作ろうと思ったのですか？

名無乃助「そうですね、戦争映画とかはよく戦場の物語などは描か  
れてるのですが、では、戦死した将兵の遺族は？残された遺族はどう  
なるのかと、いつも思っていたのです。そんな折にですね、知り合い  
の喫茶店のオーナーが…そのいわゆる遺族でして、亡くなったお父様  
にですね、なくなる前にちよつと喧嘩して、会話をしないまま、その  
まま分かれてしまった話をされまして、次に帰ってきたら絶対おかえ  
りを言つて、謝りたかつたと…それを聞いて、製作を始めたわけです」  
なるほど…確かに、家族に焦点を当てた戦争題材の映画はあまり  
見ませんもんね…今から公開が楽しみです。

ここまでご視聴ありがとうございます。

番組の最後に、プレゼントの紹介です。

この番組を見た方限定で抽選で1000人の方に映画　おかえり  
を言いたかつた　の映画前売り券をプレゼント！

応募はこちら

<https://okkeri.com>

インタビュー1 村中・早苗三等宙尉 インタビュー  
対象 兄 村中・光一

インタビュー1 村中・早苗三等宙尉の遺族、村中・光一氏

妹の事ですか？ええ、今でも覚えてますよ、妹の戦死を伝えられた時のことは……。

【妹さんはどの様な方だったのでしょうか？】

どの様な…そうですね……ありきたりの言葉になりますが、誰にでも優しい子でしたね…あとは多少お転婆…まあ、天真爛漫とでも言えばいいですかね、そんな子でした。

【妹さんが軍に入隊した理由というのはなんだったのでしょうか？】

妹が軍に入ったのは、小さい時に事故にあっただのですが、その際に偶然近くにいた軍人さんが助けてくれたという、そんな理由から憧れがあったみたいです。

私としては妹に軍に入るのはやめて欲しいと止めていたのですが、聞いてくれませんでした。

【その、差し支え無ければ、小さい時の事故…というのは？】

とある遊園地に行った時のことですね、私と妹と両親で行っていたのですが、ジェットコースターが壊れて、本体？あの人が乗っている部分が飛んできたという感じで、両親は運悪く部品が直撃したために即死、妹は落下してきた物の一部に下敷きになっていた状態で、私は破片が脇腹に貫通という状態でした。

その時に、たまたま近くで移動中だった軍の部隊の人が救助に来てくれて、その部隊の人に妹も私も救助されたのですが、妹は軍人さんに救助されたすぐ後に意識を無くして生死を彷徨ったのです。

妹はその事故で、軍人さんに救助されたことに影響を受けて軍人を目指す様になっていた様です。

私自身は妹を生死の境から救ってくれた外科医に憧れを抱いて、2人は別々の道に行くことになりました。

「それでは、軍に入った後の妹さんについて聞かせていただけますか？」

少し、長くなりますがいいでしょうか？

【はい。かまいません】

そうですか：何から話せば良いか：

妹が最初に乗ったのは練習艦081という艦でしたね、初の艦船勤務という感じではしゃいでいました。

「お兄ちゃん！私練習艦に乗り組み決まったよ！お祝いして！お兄ちゃん特性のパンケーキ食べたい！」なんて言ってきて、作って一緒に食べましたよ。

妹はいわゆるブラコンな感じがあって、あとはまあ、男勝りな所もありましたね。

ただ、そんな妹にも好きな人はいた様でしたね、帰ってくる度にその人物の名前が出てましたから、妹は自覚はなかったみたいですが、バレバレでしたよ。

私的には大事な妹なんで、その妹の好きな人がどんな人物か色々調べてみたいと……あ、いや、関係なかったですね。

妹が言うには結構な歳上で、確か、ヤマザキさんという別の艦船の機関部要員の方だそうです。

色々と世話を焼いてくれると言っていましたね、あとは子供扱いされると不貞腐れていることもしばしばありました。

確か、駆逐艦ツバキに配属されてからは、そのヤマザキさんと同じ艦隊に配属された様で、だいぶ浮かれてましたね、乗っている艦は別々だから余り会えないはずなのに、嬉しそうに話していましたよ。

あとはそうですね、小さい時から妹はよく木に登るのが好きで、スカートで登ってよく母や父、私にも怒られていたのですが、余り性格は変わらずに成長してしまいました：先も言った通りのお転婆娘だったのですが、そのヤマザキさんの話をする様になってからは、お転婆もだいぶ鳴りを潜めましてね、結構意識してるみたいでしたよ。

…あとは……

ー

光一氏の目から雫が落ちる。

見ると、光一氏は静かに涙を流していた。

私は光一氏に「大丈夫ですか?…」と聞くと、光一氏は「大丈夫です」と言われ、妹の話をするのにこれだけは外せない話がある…と切り出した。

ー

妹と私には、ある約束事がありました。

妹が艦隊勤務で長く外出するときは、私は必ず「行ってらっしゃい」と、どれだけ喧嘩しても、どれだけ忙しくても、妹が家を出る前にはメールでもなんでも使って伝える。

逆に、妹が帰ってきたら、妹は必ず「ただいま」と私在家にいればメールで伝えてくれて、私も「おかえり」と伝えて、その日は必ず私の作ったパンケーキを2人で食べるのが、恒例の行事になってました。

“あの日”本来なら妹が帰ってくる予定の日に、玄関のチャイムが鳴り、ドアを開けて、そこにいたのは…軍の事務官で、無機質に妹の戦死を知らせる言葉と、通知の紙を渡してきました。

私は…何を言われているのか、そして、戦死通知の紙の内容に、理解が追いつかなかった。

私は、“あの日”妹に言えたはずの“おかえり”が言えなかったこと、一緒にパンケーキが食べられなかったことを、未だに引きずってます。

ガミラスが憎い、ガミラスとの戦端を開いたのは軍上層部の一部の独断が原因だと、親しい軍人から聞きました。

私は、ガミラスも憎みましたが、その戦端を開く独断を行った上層部の人間も憎悪しました。

けれど、今はもうそんなのはどうでもいいんです。

私はあの戦争の後に、孤児たちを預かる施設を作ったのですが、ガミラスの子も、くる様になって…目の当たりにしたのです。

ガミラスの女の子が、地球人の子から袋叩きにされているのを…

地球人の子はガミラスとの戦争で家族を亡くした子たちでした。

ガミラスの子も、ヤマトとの戦いで親を亡くした子でした…。

私はその女の子を助けました。

何故か、ものすごく悲しくて、悔しくて、私たち大人が始めた戦争に、子供たちまで染まってしまふことが堪らなく悔しくて、申し訳なく、やるせなかつた。

それでも、前を向けたのは、引き取った子供たちのおかげです。

見て下さい、あれを

↓

光一氏が示した方を見ると、ガミラス人の子供たちと地球人の子供たちが楽しそうに一緒に遊んでいる姿が窓から見える広場にあった。

↓

あれが、子供たちの可能性です。

その気があれば、異星人とも友達になれる…：そう言った軍人さんもいたと聞きました。

それがあの光景です。

ガミラスの女の子を助けた数日後のことですが、その子を袋叩きにしてた子たちが、その子に謝罪をしにきました。

自分達がやったことが間違이었다と、自分で考えて、行動した。

数ヶ月後には、ガミラス人の子たちと、その子たちを含めた地球人の子たちが仲良く遊んでました。

私はその光景に希望を見た。

ただ、それを妹にも見せてあげたかった。

妹と一緒にパンケーキを食べながら、色んな話をして、子供たちと遊んだり、そんな日常を送りたかった。

妹にいつものように”おかえり”を言いたかった…

私は、妹のことを、これからも引きずって生きるでしょう。

それでもですね、私は、これからもその妹に恥じない様に生きていくつもりです。

↓

話しを終えた光一氏は、静かに涙を拭くと、子供たちが呼ぶ声が聞こえ、そこでインタビュを終了した。

光一氏が子供たちと笑顔でいる光景をみて私は、妹さんがその光景を見て微笑んでいる様に思えた……！